

ユニバーサル社会に向けて

ひとり
～一人ひとりの理解と行動で、
ユニバーサル社会を進めましょう～



1 ユニバーサル社会とは

ねんれい せいべつ しょうがい ぶんか
年齢、性別、障害、文化などのちがいに
なく、だれもが地域社会の一員として支えあうなかで、
あんしん く ひとり のうりよく
安心して暮らすことができ、一人ひとりが能力を
はつき げんき かつどう しゃかい
発揮して元気に活動できる社会のことです。



2 ユニバーサル社会づくりの実現に向けて

へいせい ねん あかしえきしゅうへんちく ひょうごけん しゃかい すいしんちく
平成18年に明石駅周辺地区が兵庫県の「ユニバーサル社会づくり推進地区」として、
けんか してい しゃかい すいしんちくきょうぎかい じぎょう
県下ではじめて指定され、ユニバーサル社会づくり推進地区協議会では、事業プラン
(H20~23)をつくり、ユニバーサル社会の実現にむけて取り組んできました。こ
こでは、事業プランを参考に、ユニバーサル社会を実現するために必要な取り組みを
3つにわけて紹介します。

- 1 ユニバーサル社会を理解する
「意識づくり」
- 2 人と人をつなげる
「しくみづくり」
- 3 やさしいまちへの
「基盤づくり」



ユニバーサル社会

① ユニバーサル社会を理解する 「意識づくり」

いろいろな機会をつうじて、「支えあうことの大切さ」、「人が人として尊厳をもつて生きることの大切さ」、「だれにとってもユニバーサルは身近なものであること」への理解を深めることが必要です。

② 人と人をつなげる「しくみづくり」

あかし す ひと あかし おとす ひと おも
明石に住む人・明石を訪れる人が、あたたかな思いやりにふれることができるよ
う、「みんなで支えあうまちづくり」「相手の立場に立ったまちづくり」「自分の力を
やくだ ささ あいて たちば た じぶん ちから
役立てていけるまちづくり」が必要です。この「しくみづくり」を進めるためには、
ひとり りかい ひつよう
なによりも一人ひとりの理解が必要です。

③ やさしいまちへの「^{きばん}基盤づくり」

あかし す ひと あかし おとす ひと あんぜん かねてき く はたら たの
明石に住む人、明石を訪れる人が、安全で快適に暮らし、働き、楽しむことが
と ひつよう
できるよう、バリアを取りのぞくまちづくりが必要です。

さいご
最後に・・・

しゃかい じつげん ひつよう じぎょう と
ユニバーサル社会づくりを実現していくために必要なことを、事業プランの取り
く しょうかい しゃかい じつげん なに
組みとあわせて紹介しましたが、ユニバーサル社会を実現していくためには、何よ
ひとり りかい こうどう ひつよう
りもみなさん一人ひとりの理解と行動が必要です。



あかしし しゃかい
明石市のユニバーサル社会づくりのロゴマーク
神戸学院大学美術部 稲岡郁さん作成